

第2学年図画工作科学学習指導案

1、単元名

えのぐdeファッションショー

2、単元の目標

(1) 図画工作科としての目標

- 絵の具をぬる快さ、気持ちよさを感じながら思いのままに表すことを楽しむことができる。
- 筆触を試しながら様々な線や形を絵の具で描き、好きなイメージを表現することができる。

(2) 汎用的スキル

- 筆触を試しながら様々な線や形を絵の具で描く中で、新しい表現方法を見付けたり、よさや美しさを見付けたりすることができる。(感性・表現・創造の力)

(3) 態度・価値

- 筆の扱い、色の感じ、線や形が生み出すイメージをとらえ、楽しみながら表現の幅を広げることができる。(好奇心・探究心)

3、児童の実態

2年3組の児童は図画工作の時間が大好きである。1年生のころから折り紙による紙工作や自然素材による工作等の活動の中で、様々な素材や用具に触れ、造形活動を楽しんできた。このような学習経験から新しい素材や用具に向ける感心は大変高い。

児童の造形体験は様々で、幼稚園や保育所で絵の具を扱った経験をもつ児童もいれば、家や絵画教室で絵の具の扱いに触れている児童もいる。学校ではこれまで描画や彩色の際に、クレヨンや色鉛筆など、絵の具に比べると線の細い用具で描いてきた。本題材では、初めて絵の具と出会う児童がいることにも注意しながら、まずは「絵の具を楽しむ」ということを大切に指導していきたい。

4、単元について

①教科から見た特性

本単元では絵の具を使うことで大きく線を描いたり、色をぬったりできることを感じ取らせ、画用紙に思いのままに表すことを経験させることができる。また、表現したものがファッションショーという形で友達と見合う場が保障されているため、子どもたちも向上心をもって取り組むことができる。ファッションショーは鑑賞の場として、友達の作品の良さを認め合うことを大切に指導する。同時に、それは表現の場であり、自分の表現を発表することを楽しむ力を育成できると考える。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

活動は線を描くことから始まるが、次第に点々を並べてみたり、具体物の形を描いたり、筆を振ったときにできる飛沫を楽しんだり、色を混ぜることを楽しんだり、様々な活動の広がりが見込める。これまでと違う用具を試す活動が表現の幅を広げ、創造の力の育成につながる。児童は、みんなでファッションショーをすることを念頭に、自分の感じるよさや美しさを追求する活動を作っていくことができる。

5、単元計画と資質・能力を育成する主な手立て（全3時間 本時1・2/3時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (2時間)	・絵の具の使い方の基本事項を知り、絵の具の特性をつかむ。 ・筆触を試しながら、様々な線や形を描き、新しい表現を見つける。 ・自分が見つけた表現方法や工夫を紹介し、共有する。	○感性・表現・創造の力 ○好奇心・探究心	○表現を広げる用具の準備 ○個の表現を聞き合う場づくり ○試す姿を承認する声がけ ○探究していける場づくり
第2次 (1時間)	・画用紙に袖を付け、Tシャツ型にする。 ・台の上を歩いて作品を友達に見せながら、自分の表現を発表する。	○感性・表現・創造の力 ・伝える力 ・他者に対する受容・共感・敬意	○個の表現を見合う場づくり

6、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・絵の具をぬる快さ、気持ちよさを感じながら思いのままに表すことを楽しむことができる。
- ・筆触を試しながら様々な線や形を絵の具で描き、好きなイメージを表現することができる。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 10 分	○本時の課題をつかむ。 ・今日は絵の具を使うのが楽しみだな。 ・画用紙がTシャツの形になるんだね。 ・いろいろな形を描いてみたいな。 ○絵の具の使い方を知る。 ・筆は初めて使うけど、何だか気持ちよさそう。 ・水の量によっても、色の感じが変わってくるね。 ・楽しく線を描きたいな。 ・指で描いてみてもいいのかな。	◇線を描く様子を見せるが、他の方法は隠しつつ仄めかすことで、知らないことを探し出そうとする児童の姿につなげる。(試す姿を承認する声がけ：好奇心・探究心)
展開 55 分	○用具の準備をする。 絵の具を使って、自分が好きな色、線や形を見つけよう ○線や形を描く。 ・先生のように波を描いてみようかな。 ・ジェットコースターみたいになったよ。 ・星の形を描いてみよう。 ・違う色も試してみたい。 ・先生が「リズム感があるね」って言ってくれたよ。 ・私のお気に入りのTシャツになりそうだ。 ○試した工夫を聞き合い、自分の表現に生かす。 ・点々を丸く並べていったら、花火のように見えてきた。 ・色がまざったけど、新しい色を発見できた。 ・全部の色を使って、虹を描いた友達がいたよ。 ・筆を振って、綺麗な点々を描く友達がいたよ。 ・指を使って描くのも気持ちいいって聞いたよ、試してみよう。	◇画用紙の色を選ばせたり、筆の太さを複数用意したりすることで、表現の幅が広がるようにする。(表現を広げる用具の準備：感性・表現・創造の力) ◇向き合って活動させたり、筆洗や梅皿を共用させたりすることで友達とかかわりながら感性を磨けるようにする。(追求していける場づくり：好奇心・探究心) ◇机間指導の中で、新しいことにチャレンジしている様子や活動が発展する様子をとらえ、そのよさを伝える。(試す姿を承認する声がけ：好奇心・探究心) ◆絵の具をぬる快さ、気持ちよさを感じながら思いのままに表すことを楽しんでいる。(活動の様子) ◇自分の工夫を話したり、友達の工夫を聞いたりすることで、より自分らしく表す児童の姿につなげる。(個の表現を聞き合う場づくり：感性・表現・創造の力)
結末 25 分	○活動の中で分かったことを発表する。 ・指に絵の具を付けたら、花びらの模様ができました。 ・赤と青を混ぜると紫になると思ったけど、やってみたら赤紫になりました。 ・いろんな色の絵の具を筆につけて振ったら、芸術的になりました。 ・二枚描いたけど、自分が好きなのは元気よく描けた方です。 ・バケツの中で色が混ざってきれいでした。 ○片付け	◇自他の表現の共通点や相違点を感じ取らせながら、自分の活動をふりかえらせ、これからの表現に向かう力を向上させる。(個の表現を聞き合う場づくり：感性・表現・創造の力) ◆筆触を試しながら様々な線や形を絵の具で描き、自分の好きなイメージを表現している。(活動の様子、発言、作品)